

美幌町学校運営協議会だより

※E-Mail kyouikug@town.bihoro.hokkaido.jp (学校教育)

※<掲載中>美幌町ホームページ：教育委員会・小中学校からのお知らせ

令和 3 年度
第 8 号

令和4年3月25日号
美幌町教育委員会
コミスクコーディネーター

コロナ禍により令和3年度の「3つのきょういく応援団」活動はそのほとんどが自粛を余儀なくされました。

町内の5つの学校に学校運営協議会が設置され、地域と協働し子どもたちを育てる手立てとしてご協力をお願いしてきた「3つのきょういく応援団」の活動も、新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり、積極的に行うことはできませんでした。これまで登録頂いた団体、サークル、個人応援団の皆様にご心よりお礼申し上げます。

令和3年度の登録応援団の現状は、下記の通りです。<新規>個人登録者が2名、2分野で新規加入

3つのきょういく応援団 加入状況

できる時に・できる人が・できる事を
コロナが収まったときには 力をお貸し下さい
<地域の子は地域で育てる>

	ボランティア団体	サークル登録	音楽団体	個人登録	
令和2年度 (設立時)	10団体	8+ 社教	1 団体	21 人	36 部門
令和3年度	10団体	8+ 社教	1 団体	23 人 (+2)	38部門 (+2)

※美助っ人 (マナセン利用登録サークル)

<学校と地域の協働学習>

コロナ禍ではありましたが、学校では地域の教育施設や商業施設、警察・消防・役場関係者など、学習に関わりの深い皆さんの協力を得て学習を進めてきました。農業体験や環境調査、植樹体験など、地域の方々のご協力により、子どもたちは身をもって学ぶことができました。

学校運営協議会連携会を設置 令和3年7月

コロナ禍では、従来から伝統的に行ってきた教育活動が大きく変わりました。一番大きく変化したのは、GIGA スクール構想に基づく ICT 教育への取り組みではないでしょうか。

児童生徒に与えられたクロームブック（パソコン）を自宅に持ち帰り、遠隔による学習も広がりつつあります。これからの子どもたちは、いかに有効に機器を活用し、適切な情報選択をしながら自分の考えをもつ力をつけるかが課題となっています。

このように子どもたちを取り巻く環境が変化した今、**学校の枠を超えて子どもの状況を理解することが必要**と考え、学校運営協議会の委員さんも、町民の皆さんも、課題となることの情報を共有できるように話し合える**連携会の場をつくり**ました。

- ◆こんなことはどうなんだろうか（疑問に思ふこと）、（SNSって怖くない？）
 - ◆小学校と中学校での取組が違うことに戸惑う【取組の共有】（家で勉強しないけど・・・）
 - ◆幼稚園や保育園から小学校に入学した時の課題は？【身につけておくことは？】
 - ◆タブレットやスマホの使い方は、どうしている？（PCやスマホ等の使い方の共有）
- など疑問点や他の人と考えを話し合うなど協議できる場とするものです。

※広報美幌4月号に掲載します